

レディーミクストコンクリート配合計画書

令和 7 年 4 月 1 日
 広島県呉市豊浜町大字大浜字東松山1974番地
 有限会社 谷口生コン
 生コン工場 TEL(0823) 68-2463
 FAX(0823) 68-2317

配合計画者名 谷口 尚基

工事名称					
所在地					
納入予定期					
本配合の適用期間	6月上旬～10月中旬 夏期修正標準配合				
コンクリートの打込み箇所					

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号	
					普通	27
セメントの種類	呼び方欄に記載			粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
骨材の種類	使用材料欄に記載			アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB	
骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載			軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m³	
舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度			コンクリートの温度	最高・最低 °C	
水の種類	使用材料欄に記載			水セメント比及び／又は水結合材比の目標値の上限	55 %	
単位水量の目標値の上限				単位セメント量の目標値の下限	kg/m³	
混合材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載			又は目標値の上限	kg/m³	
塩化物含有量	0.30 kg/m³以下			単位セメント量の目標値の下限	kg/m³	
呼び強度を保証する材齢	- 日			又は目標値の上限	kg/m³	
空気量	- %			流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	cm	

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント(株)				密度 g/cm³	3.04	Na₂Oeq %	0.49
混和材①	製品名	-				密度 g/cm³	-	Na₂Oeq %	-
混和材②	製品名	-				密度 g/cm³	-	Na₂Oeq %	-

骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲 %
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	碎砂	大分県津久見市上青江	A	モルタルバーカー法	5以下	2.86	2.62	2.65	7.0±2.0
	②	加工砂	呉市蒲刈町田戸字揚畑	A	化学法	5	2.80	2.51	2.55	-
	③	-	-	-	-	-	-	-	-	-
粗骨材	①	碎石	呉市蒲刈町向	A	化学法	20~10	59.5	2.71	2.72	1.0±1.0
	②	碎石	呉市蒲刈町向	A	化学法	15~5	59.5	2.71	2.72	1.0±1.0
	③	-	-	-	-	-	-	-	-	-
混和剤①	製品名			シーカボリソリス15L		AE減水剤		Na₂Oeq %		0.05
				-		-		-		-
				-		-		-		-

細骨材の塩化物量	0.000	水の種類	上澄水	目標スラッシュ 固形分率			- %
回収骨材の使用方法	細骨材	-	粗骨材	-	スラッシュ水の使用方法	-	

配合表 (kg/m³)													
セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③	
316	-	-	166	451	431	-	566	375	-	3.48	-	-	
水セメント比	52.5 %			水結合材比	-	%	細骨材率	-		49.5 %			

備考 配合切替は工程検査で測定したコンクリート温度が別表の範囲で予想練り上がりコンクリート温度を連続3点又は、5点中3点が超えた時又は下回った時

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

配合計算書

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号							
	普通	27	12	20	BB							
指定事項 (必須項目)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載								
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB								
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	-	kg/m³							
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低	℃							
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び/又は 水結合材比の目標値の上限	55	%							
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	-	kg/m³							
	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下	単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	-	kg/m³							
	呼び強度を保証する材齢	- 日	流動化後のスランプ又は スランプフローの増大量	-	cm							
	空気量	- %										
変動係数(V)	当社実績値			V = 8.0 (%)								
配合強度(m)	m = 0.85SL ÷ (1 - 3.000V ÷ 100) = 30.2 m = SL ÷ (1 - 2.000V ÷ 100) = 32.1 以上より、配合強度(m) = 32.1(N/mm²)とします。			m = 32.1(N/mm²)								
水セメント比(W/C)	W/C = 22.5 ÷ (32.1 + 10.6) × 100 = 52.693 (%)			W/C = 52.5 (%)								
単位水量(W)	当社実績値			W = 166(kg/m³)								
単位セメント量(C)	C = W ÷ W/C × 100 = 166 ÷ 52.5 × 100 = 316(kg/m³) Vc = C ÷ ρc = 316 ÷ 3.04 = 104(ℓ/m³)			C = 316(kg/m³) Vc = 104(ℓ/m³)								
粗骨材かさ容積(ℓ/m³)	当社実績値			V = 582(ℓ/m³)								
単位粗骨材量(G)	Vg = V × 実積率 ÷ 100 = 582 × 59.5 ÷ 100 = 346(ℓ/m³) Vg1 = Vg × (60 ÷ (60 + 40)) = 208(ℓ/m³) Vg2 = Vg - Vg1 = 138(ℓ/m³) G1 = Vg1 × ρg1 = 208 × 2.72 = 566(kg/m³) G2 = Vg2 × ρg2 = 138 × 2.72 = 375(kg/m³)			Vg = 346(ℓ/m³) Vg1 = 208(ℓ/m³) Vg2 = 138(ℓ/m³) G1 = 566(kg/m³) G2 = 375(kg/m³)								
単位細骨材量(S)	Vs = コンクリート容積 - (W + Vc + Vg + Vair) = 1000 - (166 + 104 + 346 + 45) = 339(ℓ/m³) Vs1 = Vs × (50 ÷ (50 + 50)) = 170(ℓ/m³) Vs2 = Vs - Vs1 = 169(ℓ/m³) S1 = Vs1 × ρs1 = 170 × 2.65 = 451(kg/m³) S2 = Vs2 × ρs2 = 169 × 2.55 = 431(kg/m³)			Vs = 339(ℓ/m³) Vs1 = 170(ℓ/m³) Vs2 = 169(ℓ/m³) S1 = 451(kg/m³) S2 = 431(kg/m³)								
細骨材率(s/a)	s/a = Vs ÷ (Vs + Vg) × 100 = 339 ÷ (339 + 346) × 100 = 49.5 (%)			s/a = 49.5 (%)								
単位混和剤量(Ad)	Ad1 = C × 添加率 × ρad1 ÷ 100 = 316 × 1.00 × 1.100 ÷ 100 = 3.48(kg/m³)			Ad1 = 3.48(kg/m³)								
配合表 (kg/m³)												
セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③
316	-	-	166	451	431	-	566	375	-	3.48	-	-
水セメント比	52.5	%	水結合材比	-	%	細骨材率	-	49.5	%			

配合表 (kg/m³)

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③
316	-	-	166	451	431	-	566	375	-	3.48	-	-
水セメント比	52.5	%	水結合材比	-	%	細骨材率	-	49.5	%			

レディーミクストコンクリート配合計画書

令和 7 年 4 月 1 日

広島県呉市豊浜町大字大浜字東松山1974番地

有限会社 谷口生コン

生コン工場 TEL(0823) 68-2463

FAX(0823) 68-2317

殿

配合計画者名 谷口 尚基

工事名称				
所在地				
納入予定期				
本配合の適用期間	3月下旬～7月上旬・9月中旬～12月中旬 標準配合			
コンクリートの打込み箇所				

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ [°] 又はスランプ [°] フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号		
					普通	27	
指定事項 (任意)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載		
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB		
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m ³		
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	最高・最低 °C		
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び／又は水結合材比の目標値の上限	55 %		
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	kg/m ³		
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位セメント量の目標値の下限	kg/m ³		
呼び強度を保証する材齢		- 日		又は目標値の上限	kg/m ³		
空気量		- %		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	cm		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント(株)			密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq %	0.49
混和材①	製品名	-			密度 g/cm ³	-	Na ₂ Oeq %	-
混和材②	製品名	-			密度 g/cm ³	-	Na ₂ Oeq %	-

骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm ³		微粒分量の範囲 %		
				区分	試験方法			絶乾	表乾			
細骨材	①	碎砂	大分県津久見市上青江	A	モルタルバー法	5以下	2.86	2.62	2.65	7.0±2.0		
	②	加工砂	呉市蒲刈町田戸字揚畑	A	化学法	5	2.80	2.51	2.55	-		
	③	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
粗骨材	①	碎石	呉市蒲刈町向	A	化学法	20~10	59.5	2.71	2.72	1.0±1.0		
	②	碎石	呉市蒲刈町向	A	化学法	15~5	59.5	2.71	2.72	1.0±1.0		
	③	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
混和剤①	製品名			シーカボ [®] ソリス15L		AE減水剤		Na ₂ Oeq %		0.05		
				-		種類	-			-		
				-			-			-		

細骨材の塩化物量	0.000	水の種類	上澄水	目標スラッシュ 固形分率	- %
----------	-------	------	-----	--------------	-----

回収骨材の使用方法	細骨材	-	粗骨材	-	スラッシュ 水の使用方法	-
-----------	-----	---	-----	---	--------------	---

配合表 (kg/m ³)													
セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③	
310	-	-	163	456	439	-	566	375	-	3.41	-	-	
水セメント比	52.5	%	石灰砕砂:加工砂=50:50	水結合材比	-	%	細骨材率	-	49.9	%			

細骨材混合比(容積)
粗骨材混合比(容積)

備考 配合切替は工程検査で測定したコンクリート温度が別表の範囲で予想練り上がりコンクリート温度を連続3点又は、5点中3点が超えた時又は下回った時

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

配合計算書

呼び方	コンクリートの種類による記号		呼び強度 普通	スランプ又はスランプフロー cm 27	粗骨材の最大寸法 mm 20	セメントの種類による記号						
指定事項 <small>(必須)</small>	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法		呼び方欄に記載						
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法		BB						
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量		-	kg/m³					
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度		最高・最低	℃					
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は 水結合材比の目標値の上限		55	%					
	混合材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限		-	kg/m³					
	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下		単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限		-	kg/m³					
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスランプ又は スランプフローの増大量		-	cm					
	空気量	- %										
変動係数(V) 当社実績値						V =	8.0 (%)					
配合強度(m) $m = 0.85SL \div (1 - 3.000V \div 100) = 30.2$ $m = SL \div (1 - 2.000V \div 100) = 32.1$ 以上より、配合強度(m) = 32.1(N/mm²)とします。						$m = 32.1(N/mm^2)$						
水セメント比(W/C) $W/C = 22.5 \div (32.1 + 10.6) \times 100 = 52.693(%)$						W/C = 52.5 (%)						
単位水量(W) 当社実績値						W =	163 (kg/m³)					
単位セメント量(C) $C = W \div W/C \times 100 = 163 \div 52.5 \times 100 = 310(kg/m³)$ $Vc = C \div \rho_c = 310 \div 3.04 = 102(\varrho / m³)$						C =	310 (kg/m³)					
粗骨材かさ容積(ℓ/m³) 当社実績値						V =	582 (ℓ / m³)					
単位粗骨材量(G) $Vg = V \times \text{実積率} \div 100 = 582 \times 59.5 \div 100 = 346(\varrho / m³)$ $Vg1 = Vg \times (60 \div (60 + 40)) = 208(\varrho / m³)$ $Vg2 = Vg - Vg1 = 138(\varrho / m³)$ $G1 = Vg1 \times \rho g1 = 208 \times 2.72 = 566(kg/m³)$ $G2 = Vg2 \times \rho g2 = 138 \times 2.72 = 375(kg/m³)$						Vg =	346 (ℓ / m³)					
単位細骨材量(S) $Vs = \text{コンクリート容積} - (W + Vc + Vg + Vair)$ $= 1000 - (163 + 102 + 346 + 45) = 344(\varrho / m³)$ $Vs1 = Vs \times (50 \div (50 + 50)) = 172(\varrho / m³)$ $Vs2 = Vs - Vs1 = 172(\varrho / m³)$ $S1 = Vs1 \times \rho s1 = 172 \times 2.65 = 456(kg/m³)$ $S2 = Vs2 \times \rho s2 = 172 \times 2.55 = 439(kg/m³)$						Vs =	344 (ℓ / m³)					
細骨材率(s/a) $s/a = Vs \div (Vs + Vg) \times 100 = 344 \div (344 + 346) \times 100 = 49.9(%)$						s/a =	49.9 (%)					
単位混和剤量(Ad) $Ad1 = C \times \text{添加率} \times \rho ad1 \div 100$ $= 310 \times 1.00 \times 1.100 \div 100 = 3.41(kg/m³)$						Ad1 =	3.41 (kg/m³)					
配合表 (kg/m³)												
セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③
310	-	-	163	456	439	-	566	375	-	3.41	-	-
水セメント比	52.5	%	水結合材比	-	%	細骨材率	49.9	%				

レディーミクストコンクリート配合計画書

令和 7 年 4 月 1 日

広島県呉市豊浜町大字大浜字東松山1974番地
有限会社 谷口生コン
生コン工場 TEL(0823) 68-2463
FAX(0823) 68-2317

配合計画者名 谷口 尚基

工事名称					
所在地					
納入予定期					
本配合の適用期間	11月中旬～4月下旬 冬期修正標準配合				
コンクリートの打込み箇所					

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号	
					普通	27
セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載			
骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB			
骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m³			
舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低 °C			
水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55 %			
混合材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位セメント量の目標値の上限	- kg/m³			
塩化物含有量	0.30 kg/m³以下	又は目標値の上限	- kg/m³			
呼び強度を保証する材齢	- 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	- cm			
空気量	- %					

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント(株)				密度 g/cm³	3.04	Na₂Oeq %	0.49
混和材①	製品名	-				密度 g/cm³	-	Na₂Oeq %	-
混和材②	製品名	-				密度 g/cm³	-	Na₂Oeq %	-

骨材 No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲 %	
			区分	試験方法			絶乾	表乾		
細骨材 ①	碎砂	大分県津久見市上青江	A	モルタルバー法	5以下	2.86	2.62	2.65	7.0±2.0	
細骨材 ②	加工砂	呉市蒲刈町田戸字揚畑	A	化学法	5	2.80	2.51	2.55	-	
細骨材 ③	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
粗骨材 ①	碎石	呉市蒲刈町向	A	化学法	20~10	59.5	2.71	2.72	1.0±1.0	
粗骨材 ②	碎石	呉市蒲刈町向	A	化学法	15~5	59.5	2.71	2.72	1.0±1.0	
粗骨材 ③	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
混和剤①	製品名	シーがボゾーリス15L			AE減水剤		Na₂Oeq %	0.05		
混和剤②		-			種類	-		-		
混和剤③		-				-		-		

細骨材の塩化物量	0.000	水の種類	上澄水	目標スラッシュ 固形分率	- %
回収骨材の使用方法	細骨材	-	粗骨材	-	スラッシュ 水の使用方法

配合表 (kg/m³)													
セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③	
305	-	-	160	464	444	-	566	375	-	3.36	-	-	
水セメント比	52.5	%	石灰砕砂:加工砂=50:50	水結合材比	-	%	細骨材率	-	50.2	%			
細骨材混合比(容積)	碎砂	50	50	粗骨材混合比(容積)	碎石	2010	碎石	1505	60:40				

備考 配合切替は工程検査で測定したコンクリート温度が別表の範囲で予想練り上がりコンクリート温度を連続3点又は、5点中3点が超えた時又は下回った時

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

配 合 算 書

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号							
	普通	27	12	20	BB							
指定事項 (必須) (任意)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載								
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB								
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	-	kg/m³							
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低	℃							
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び/又は 水結合材比の目標値の上限	55	%							
	混合材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位セメント量の目標値の下限	-	kg/m³							
	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下	又は目標値の上限	-	kg/m³							
	呼び強度を保証する材齢	- 日	流動化後のスランプ又は スランプフローの増大量	-	cm							
	空気量	- %										
	変動係数(V)	当社実績値		V = 8.0 (%)								
配合強度(m)												
$m = 0.85SL \div (1 - 3.000V \div 100) = 30.2$												
$m = SL \div (1 - 2.000V \div 100) = 32.1$												
以上より、配合強度(m) = 32.1(N/mm²)とします。												
m = 32.1(N/mm²)												
水セメント比(W/C)												
$W/C = 22.5 \div (32.1 + 10.6) \times 100 = 52.693 (%)$												
W/C = 52.5 (%)												
単位水量(W)												
当社実績値												
W = 160(kg/m³)												
単位セメント量(C)												
$C = W \div W/C \times 100 = 160 \div 52.5 \times 100 = 305(kg/m³)$												
$Vc = C \div \rho_c = 305 \div 3.04 = 100(\mathcal{L}/m³)$												
Vc = 100(ℓ/m³)												
粗骨材かさ容積(ℓ/m³)												
当社実績値												
V = 582(ℓ/m³)												
単位粗骨材量(G)												
$Vg = V \times \text{実積率} \div 100 = 582 \times 59.5 \div 100 = 346(\mathcal{L}/m³)$												
Vg = 346(ℓ/m³)												
$Vg1 = Vg \times (60 \div (60 + 40)) = 208(\mathcal{L}/m³)$												
Vg1 = 208(ℓ/m³)												
$Vg2 = Vg - Vg1 = 138(\mathcal{L}/m³)$												
Vg2 = 138(ℓ/m³)												
$G1 = Vg1 \times \rho g1 = 208 \times 2.72 = 566(kg/m³)$												
G1 = 566(kg/m³)												
$G2 = Vg2 \times \rho g2 = 138 \times 2.72 = 375(kg/m³)$												
G2 = 375(kg/m³)												
単位細骨材量(S)												
$Vs = \text{コンクリート容積} - (W + Vc + Vg + Vair)$												
$= 1000 - (160 + 100 + 346 + 45) = 349(\mathcal{L}/m³)$												
Vs = 349(ℓ/m³)												
$Vs1 = Vs \times (50 \div (50 + 50)) = 175(\mathcal{L}/m³)$												
Vs1 = 175(ℓ/m³)												
$Vs2 = Vs - Vs1 = 174(\mathcal{L}/m³)$												
Vs2 = 174(ℓ/m³)												
$S1 = Vs1 \times \rho s1 = 175 \times 2.65 = 464(kg/m³)$												
S1 = 464(kg/m³)												
$S2 = Vs2 \times \rho s2 = 174 \times 2.55 = 444(kg/m³)$												
S2 = 444(kg/m³)												
細骨材率(s/a)												
$s/a = Vs \div (Vs + Vg) \times 100 = 349 \div (349 + 346) \times 100 = 50.2 (%)$												
s/a = 50.2 (%)												
単位混和剤量(Ad)												
$Ad1 = C \times \text{添加率} \times \rho ad1 \div 100$												
$= 305 \times 1.00 \times 1.100 \div 100 = 3.36(kg/m³)$												
Ad1 = 3.36(kg/m³)												
配合表 (kg/m³)												
セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③
305	-	-	160	464	444	-	566	375	-	3.36	-	-
水セメント比	52.5	%	水結合材比	-	%	細骨材率	-	50.2	%			